



▲ダブルヒットも見られた



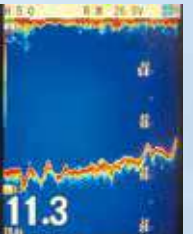
▲ソケ級から大型まで、どんなサイズが食ってくるか分からない
◀太東沖10~20メートルダチを横流して狙った
▼まめに底ダチを取り直すことが重要



◀エサが豊富なのかこのサイズでも驚くほど肉厚



★外房のヒラメは数、型ともに上り調子



▲当日は底の起伏の激しいポイントを通した



◀エサのイワシは船長が配ってくれる

▶船長手作りの特製仕掛けは2組入り500円、オモリは80号と100号を状況で使い分ける



▲エサは13~15センチほどのマイワシ



●外房大原港・春栄丸
白川 永一船長とおかみの初美さん、息子の永真くん(左)と晃大くん

じつといい日はトップで5枚以上。例年秋から冬はイワシの群れに着いたヒラメの回遊も期待できるため、さらなる大釣りに沸く可能性もある。
なお当地は横流しが中心で、取材した春栄丸では標準オモリ80号のほか、潮が速いときは100号も使う。底の起伏が激しい岩礁帯を狙うこともあるので、根掛かりに備えて仕掛けとオモリは多めに用意しよう。
(詳細は52ページ参照)



▲潮が速くバラシが多かった

目下の釣り場は太東沖の水深10~20メートル前後で、1キロ前後を主体に2~3キロ級も交



▲春栄丸は4時集合、準備ができ次第出船
◀終了間際にアタることも多い
▼ヒラメならではの独特の引き味が楽しい



▶1キロ前後がアベレージ

秋本番を迎えて各地でヒラメの様相が上昇しており、ここ外房大原港出船も全面解禁となった10月以降、順調な釣れ具合で推移している。



外房大原のヒラメ視界良好 釣りごろ、食べごろサイズ連発

外房大原港出船 撮影●椎名義徳



●しっかり魚を浮かせてタモ取りしてもらおう